第66号

ほっとっと

発行（R4年11月）
公益社団法人
高知県看護協会
保健師職能委員会
〒780-8066
高知市朝倉己825－5
TEL 088-844-0678
FAX 088-844-0053

保健師・助産師・看護師職能合同集会を開催しました。

■日時　令和4年7月3日（日）12:30～14:30　■場所　高知県看護協会及びweb参加

今年は2年ぶりに3職能合同で職能集会を開催することが出来ました。集会では、新型コロナ第6波を振り返り、新型コロナ感染症の感染が広がる中で、高知県看護協会や3職能が職場での感染対策やクラスター対応、他施設への派遣支援の経験から得た学びや連携の重要性を理解・共有し、今後の感染対策に活かしていくことをねらいとして開催しました。

当日はWeb参加の方も含めて59名の方の参加があり、各職場での感染対策の取組状況など、活発な意見交換がされました。

話題提供として、各職能からそれぞれの現場でコロナ対策にどう取り組んだのか発表がありましたので紹介します。

テーマ:「看護職はコロナ禍をどう乗り切ったのか」

看護師

「新型コロナウイルスクラスター施設への支援活動報告」
高知赤十字病院　川村　亜希さん

高知赤十字病院からはクラスターが発生した施設への広域派遣の経験から、現場での支援活動を通して気づいたことなどの報告がありました。

派遣先では自分が役割を果たすことができているか不安があったが、誰でもできる業務や誰かが出来る事をすることで日常の医療体制や看護の体制に近づいていくことを学んだことや、レッドゾーンでの勤務は精神的にもハードだが、現場では「お願いします」「ありがとうございました」といったスタッフ同士の感謝を伝える声掛けが自然に浸透していたことから、忙しいからこそお互いを思いやる声掛けの必要性を改めて感じたことなどが紹介されました。

助産師

「周産期における新型コロナウイルス対応について」
高知医療センター　看護副科長　矢野　真奈美さん

高知医療センターでは、総合周産期母子医療センターとしての役割を果たすべく、母子の健康を守るため、さまざまな課題に取り組まれています。

妊産婦への感染対策教育を徹底するとともに、母親学級・両親学級が中止になる中で保健指導などに使用する媒体の充実などに工夫をしながら取り組まれる中で、リモートでの集団指導や動画視聴などによる新たなシステム構築の必要性に気が付いたことや、入院分娩時におけるマンパワー不足の課題に対しては応援体制の充実はもちろん、そういった状況下でこそ、日頃の連絡やコミュニケーションが緊急時のメンタルモデルの共有に大きく影響することから、必要な情報を正確に共有していくことの重要性についてあらためて気づいたことなどの報告がありました。

保健師

「高齢者施設のクラスター対応を振り返って」
高知県中央東福祉保健所　地域支援室　尾木　朝子さん

中央東福祉保健所では高齢者施設で発生した大規模なクラスター対応の経験を報告していただきました。

高齢者入所施設で発生したクラスターでは、基礎疾患を持つ多くの高齢者が施設内療養を余儀なくされました。そのため、重症化予防より重症者への医療を優先せざる得ない状況となり、さらに早い段階から職員にも感染が広がったことから、看護職が不足する中で命を守るための医療処置等の体制確保さえも困難を極めました。そんな時に高知県看護協会が調整役となり、県内の医療機関や大学から看護職の応援を得ることができたことで、嘱託医と連携した施設内療養者の健康観察や医療処置・感染管理、不調の早期探知が可能となるとともに、入院調整に向けての情報集約や発信など、ロジ機能の改善につながったことなどが報告されました。

職域からのレポート

JCHO高知西病院 健康管理センター

こんにちは！
JCHO高知西病院の
保健師活動を
紹介します!

けんしんドッグちゃん

保健師　矢野千草

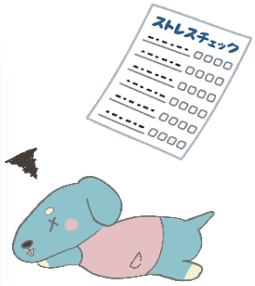
健康管理センター
看護部スタッフ
保健師4名
看護師3名

壮年期死亡率改善
疾病予防と早期発見のためのアプローチ
特定保健指導・健診後指導

当センターで実施している健診は8割以上が職域健診です。年齢別では40才代が最も多く、全体の7割が働き盛りであり壮年期死亡率改善において、優先度の高い対象者です。

生涯を通じた健康づくり
生活習慣病リスクの周知啓発
健康教室・展示教育

コロナ禍で集合教育が開催できず、展示教育により地域の方々の、お役に立てる情報発信を心がけています。



病院職員の健康支援
カウンセリング・職員研修・職場復帰支援

ワークモチベーションやエンゲージメントを高め、職員が意欲を持って、“イキイキと楽しく”働くことのできる職場を目指しています。また、休養が必要になったとしても、安心して職場に戻れるようメンタルヘルス体制を整えています。

今後の展望
患者教育・退院支援・地域連携

地域包括ケアシステムの中で、患者や家族がヘルスリテラシーを高め、自律した健康行動がとれるよう、培ってきた知識やスキルを活かしたい。そして、患者・家族のニーズを他職種に繋ぎ、各専門職がその専門性を発揮できるよう調整するなど組織横断的な保健師活動を目指したいと思います。

第1弾 「突撃！隣の保健師さん」 今月号から地域の保健師さんのお仕事を紹介していきます。

町の保健師になって

仁淀川町　保健福祉課
奥田　恵美

私は、緑豊かな仁淀川町（旧池川町）で生まれました。勉強が苦手で、学校には給食と体育だけを楽しみに通っていました。ある時、町保健師の方が授業をしてくれました。その時見せていただいたのが、訪問カバンの中身でした。血圧計・ペンライト・スポイド・包帯・消毒液等、次から次と出して見せてくれました。その時思ったことは「このカバンさえあれば、人を助けることができる！」でした。今思えば笑ってしまいます。でも、そこから勉強に力を入れ、看護師免許を取得。市内の医療機関で勤務。その後、H11年に保健師として仁淀川町（旧池川町）に採用していただきました。早いもので、お世話になり25年が経ちました。その間、市町村合併等大きな動きもありました。

新採の頃は、保健師としてやっていけれるのか？正直不安な気持ちで毎日過ごしていたことを覚えています。今思えば、住民の方の優しい言葉がけのおかげで、今日まで仕事を続けてこれたと思います。本当に感謝です。
R3年からは、声をかけていただき職能委員として活動させていただいています。職能委員の活動は、知られていないことがたくさんあると感じています。多くの方に活動を知っていただきたいので、まずは自分の町の保健師に活動内容の報告を時間を見つけてはさせてもらっています。今、看護協会に何が求められているのか、何をすべきか、保健師の日ごろの声から見つけていきたいと思っています。

最近、50歳を超えた頃から物事を広くみることができるようになったと思います。ゆったりした気持ちで、何事にも対応することができるようになりました。年齢とともに、やっと住民さんの気持ちに少し寄り添える仕事ができ始めたかな・・と、自分では思っています。

若い保健師の方たちに伝えたい。保健師は、人々の健康をサポートする大切な役割を担っています。仕事は大変なこともありますが、住民の方の「ありがとう」に助けられて、私も何とかここまでやってきました。皆さんも、時々リフレッシュしながら頑張っていただきたいと思います。よかったら、仁淀川町にも遊びに来てくださいね！お待ちしています。

北浦ふれあい公園の桜

仁淀川町保健師

市川家しだれ桜

福祉事務所　1年生

香美市役所　福祉事務所
徳田　富貴子

今年の4月から福祉事務所へ異動となりました。

ピカピカの1年生～♪…と言いたいところですが、実際は身も心も（特に身体の方）ついていくので必死な毎日です〈汗〉。事務所の位置としては、以前配属されていた部署のすぐ隣なんですが、「ここは異国か！？」と思うくらい、耳に入る言葉の意味すら分からない状態でした。

日々の業務は、障害支援区分の認定調査や障害児通所支援事業所を利用するための聞き取り調査、相談支援事業所や家族からの相談業務（ケースワーク）、成年後見制度、発達障害児等支援体制整備などなど盛りだくさん。

私は、ヘルス部門のほかに子育て支援センターへの異動の経験もあり、今回はじめての福祉事務所。色々な部署でさまざまな経験をさせていただいた結果、まさしく今、これまでの経験が自分を支えています。福祉の世界は、本当に多岐にわたり、異国のように見えましたが、よく見ると目指す方向も同じで、すべてがつながっているのだと分かった時、安心できました。

たくさんの制度があり、それに伴いやらなければならない事業も多く、自分の業務をこなすことで精一杯になりますが、少し先の目標を見据えて、部署を超えて、手を取り合いながら、一緒に仕事ができたらいいなと思います。

～ワンポイント情報～

●医ケア＝医療的ケア児の略称

医療的ケア児とは、医学の進歩を背景としてNICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。

●なかぽつ＝障害者就業・生活支援センターの略称

障害者就業・生活支援センターとは、障害のある人が仕事に関することと生活に関することの両方を相談できる施設のこと。名称の間に「・」があることから省略して呼ばれているようです。

普段の仕事が災害時に活きるように・・・

須崎市役所　健康推進課
西本　美公子

東日本大震災の保健活動を学ぶ会として、宮城県南三陸町の高橋晶子保健師さんからお話しを聞く機会がありました。震災後3日目に、生活不活発病を予防しようと、避難所であるベイサイドアリーナで800人の住民の前で、「体を動かそう」と呼びかけて、みんなと一緒にいつも高齢者の集いでやっている体操を行ったそうです。「本当に簡単な体操で短時間だったけれど、体操が終わった後に大きな拍手が起こった。住民の顔つきが変わったのが分かった。」その後も、住民がどんどん気力がなくなっていく、前より年を取っているように感じることが多くなったと感じていたため、「町民の健康を取り戻すにはどうしたらいいか？考えて、●●事業に重点を置くのではなく、生活不活発病対策として、住民が「やりたいこと」「住民と楽しくつながること」で「することを増やす」保健活動の展開に力を入れたと話していただきました。普段の保健活動ができる環境を大切にまた、臨機応変保健活動の展開ができる思考力を育てることが有事にも役に立つ仕事の仕方に繋がると深く感じた事でした。

また、このご時世、私は、保健師の仕事の良さを、楽しさを伝えながら仕事ができているだろうか？ほっとっとでも、これからも、保健師の仕事のやりがいを、お伝えできていればいいなと感じています。

高知県看護協会のマスコットキャラができました！

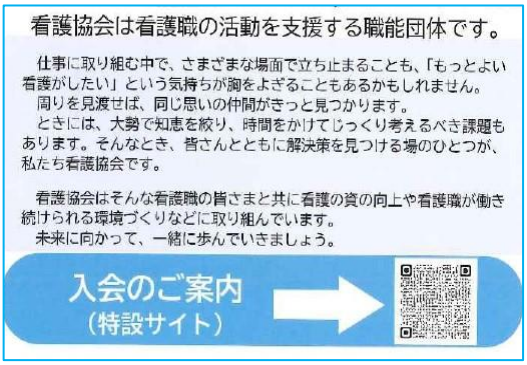
高知県のマスコットキャラクターができました！
名前は高知県看護協会かんごちゃんです。ゆずをモデルにしています。
右手に鳴子を持っています。カラーはヤイロチョウのイメージだとか。

日本看護協会の使用解禁日は間もなくですが、まだ、このような形でしか、お顔をお見せできないのが残念で～す。
今後、広報活動等で　出現しますので乞うご期待!!

高知県看護協会
かんごちゃん

こんなカードもできてます。

マスコットキャラやカードをご利用の際は
高知県看護協会保健師職能担当まで☎844-0678



編集後記
職能委員会に仕事が終わってからZOOMで参加しました。みんなでまじめに、「看護協会の良さを伝えるには？」と話しあってこの号ができました。一人でも多くの方とつながりたいそんな願いが伝わりますように。